



# 平成25年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成25年1月31日

上場会社名 京福電気鉄道株式会社

上場取引所 大

コード番号 9049 URL <http://www.keifuku.co.jp/>

代表者 (役職名) 代表取締役社長

(氏名) 西田 寛

問合せ先責任者 (役職名) 取締役 管理本部長

(氏名) 長尾 拓昭

TEL 075-841-9385

四半期報告書提出予定日 平成25年2月13日

配当支払開始予定日 —

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

## 1. 平成25年3月期第3四半期の連結業績(平成24年4月1日～平成24年12月31日)

### (1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
25年3月期第3四半期	8,612	△2.4	467	△15.3	418	△17.0	263	△34.7
24年3月期第3四半期	8,824	0.1	551	△4.3	504	△1.7	403	4.8

(注) 包括利益 25年3月期第3四半期 296百万円 (△23.4%) 24年3月期第3四半期 387百万円 (△4.5%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
25年3月期第3四半期	13.24	—
24年3月期第3四半期	20.27	—

### (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
25年3月期第3四半期	17,071	4,334	22.1	189.38
24年3月期	16,544	4,096	21.5	178.33

(参考) 自己資本 25年3月期第3四半期 3,768百万円 24年3月期 3,549百万円

## 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
24年3月期	—	0.00	—	2.00	2.00
25年3月期	—	0.00	—	—	—
25年3月期(予想)	—	—	—	2.00	2.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

## 3. 平成25年3月期の連結業績予想(平成24年4月1日～平成25年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	11,600	△0.4	430	△14.5	370	△16.1	300	△0.8	15.07

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無  
新規 一社 (社名) 、 除外 一社 (社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 有
- ④ 修正再表示 : 無

(注)第1四半期連結会計期間より減価償却の方法の変更を行っており、「会計方針の変更を会計上の見積りの変更と区別することが困難な場合」に該当しております。詳細は、添付資料3ページ「2. サマリー情報(注記事項)に関する事項(3)会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示」をご覧ください。

(4) 発行済株式数(普通株式)

- ① 期末発行済株式数(自己株式を含む)
- ② 期末自己株式数
- ③ 期中平均株式数(四半期累計)

25年3月期3Q	20,000,000 株	24年3月期	20,000,000 株
25年3月期3Q	98,471 株	24年3月期	96,306 株
25年3月期3Q	19,902,411 株	24年3月期3Q	19,904,668 株

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期財務諸表のレビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期財務諸表のレビュー手続は終了していません。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

業績予想については発表日現在において入手可能な情報に基づき作成しており、実際の業績は様々な要因により予想数値と異なる可能性があります。なお、業績予想に関する事項については、添付資料3ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3)連結業績予想に関する定性的情報」をご覧ください。

## ○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報 .....	2
(1) 連結経営成績に関する定性的情報 .....	2
(2) 連結財政状態に関する定性的情報 .....	3
(3) 連結業績予想に関する定性的情報 .....	3
2. サマリー情報（注記事項）に関する事項 .....	3
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 .....	3
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 .....	3
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示 .....	3
3. 四半期連結財務諸表 .....	4
(1) 四半期連結貸借対照表 .....	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書 .....	6
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間 .....	6
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間 .....	7
(3) 継続企業の前提に関する注記 .....	8
(4) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記 .....	8
(5) セグメント情報等 .....	8

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

## (1) 連結経営成績に関する定性的情報

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、欧州等諸外国の経済環境に改善の兆しは見られず、また、国内では政権交代およびこれに伴う金融緩和政策への期待は高まるものの、電気料金の値上げや消費税増税などの懸念材料により景気の先行きは依然不透明な状況で推移しております。

このような状況のなか、当社グループにおきましては、賃貸用不動産のスクラップ&ビルドを進めるなど業容の拡大や収益基盤の強化に努めました。しかしながら、個人消費の低迷により営業収益は減収となり、コスト見直しを推し進めたものの減益となりました。

当第3四半期連結累計期間の当社グループの営業収益は8,612百万円（前年同期比212百万円、2.4%減）となり、営業利益は467百万円（前年同期比84百万円、15.3%減）となりました。これに営業外収益および営業外費用を加減した経常利益は418百万円（前年同期比85百万円、17.0%減）となり、特別利益および特別損失ならびに法人税等を加減した四半期純利益は263百万円（前年同期比140百万円、34.7%減）となりました。

セグメント別の業績は、次のとおりであります。

## ① 運輸業

鉄軌道事業におきましては、嵐山線では、休日よりも平日も嵐電をご利用になるお客様が増加したことに加え、旅行エージェントへの積極的な営業活動により、修学旅行、日帰りバスツアー等の誘致に努めた結果、前年を上回るお客様にご利用いただきました。さらに、沿線社寺拝観や各種特典がセットになったお得な乗車券の積極的な販売や、嵐電とその沿線の魅力を引き上げる様々なイベントを実施し、嵐電の利用拡大に努めました。叡山ケーブル・ロープウェイでは、八瀬・比叡山観光とケーブルカー・ロープウェイをセットにした企画を旅行エージェントと共同で商品化し、日帰りバスツアーの誘致営業に取り組みました。

バス事業におきましては、京都バス(株)は、輸送の効率化と利用促進に継続して取り組むとともに、既に実施済の一部路線の縮小や新規開設路線の検証を行うことで、お客様の利用促進を図り、お客様の利用が見込める新たな路線への資源の集中と営業施策の拡充に鋭意取り組みました。京福バス(株)は、路線バス事業では、お客様のご要望や利便性向上など様々な観点からの利用促進策に取り組み、地域住民と交通事業者の連携・協力により、既存路線と地域コミュニティバスを効率的に組み合わせた新規運行を開始いたしました。また、お客様の待ち時間の軽減などを目的に、運行情報等をウェブサイトですぐに検索できる「京福バスナビ」を平成24年12月より運用開始いたしました。

タクシー事業におきましては、福井地区の京福グループ・タクシー3社では、各社間での連携を保ちながら、新規のお客様確保に努めました。また、行政とのデマンド輸送契約を締結するとともに、今後の利用拡大と継続運行に向けた諸課題整理と営業活動に取り組みました。

以上の結果、運輸業の営業収益は5,858百万円（前年同期比46百万円、0.8%減）となり、営業利益は223百万円（前年同期比23百万円、9.6%減）となりました。

## ② 不動産業

不動産分譲事業におきましては、(株)京福コミュニティサービスが、福井市内の新規分譲土地「下江守町土地」の販売を平成24年11月より開始したほか、既存の分譲宅地の完売を目指した営業活動に引き続き取り組みました。

不動産賃貸事業におきましては、賃貸用不動産の収益性の確保と施設の保全のため保有資産の入れ替えを図りました。一方、「嵐山駅はんなり・ほっこりスクエア」では、同スクエアと嵐山へのさらなる誘客を図るため、施設の改修を進めました。さらに、平成24年12月には、四条大宮駅ビル（日本生命ビル）地下1階に「Café レストランガスト」がオープンし、ターミナル駅の活性化を図りました。また、「BOAT RACE 三国」では、外向発売所において場外発売日数を増やすとともに、ボートレース場内での各種催しを開催し、ボートレースのPRとさらなる利用促進に取り組みました。

以上の結果、不動産業の営業収益は1,574百万円（前年同期比78百万円、4.7%減）となり、営業利益は185百万円（前年同期比28百万円、13.5%減）となりました。

## ③ レジャー・サービス業

飲食業におきましては、名古屋ルーセントタワー内の「吉珍樓（キッチンロウ）」では同タワーでのケータリングサービスをはじめとする営業活動を継続的に実施し好調に推移したほか、開業2年目を迎えたJR博多シティ（JR博多駅ビル）内の「京都ぎをん八咫（やた）博多店」では新メニューの開発、近隣法人への営業強化に取り組みました。

ホテル業・水族館業におきましては、三国観光ホテルでは、企業研修利用件数の減少はあったものの、学生団体をはじめ各種学会などの誘致強化に努めました。越前松島水族館では、「おさかな館」、「ペンギん館」、「海洋館」の人気施設を最大限に活用しながら当館独自の魅力をPRし、誘客に向けた積極的な宣伝活動に努めました。

その他の事業におきましても、引き続き営業強化に取り組み、お客様に喜んでいただけるサービスの提供を目指して鋭意取り組みました。

以上の結果、レジャー・サービス業の営業収益は1,645百万円（前年同期比100百万円、5.8%減）となり、営業利益は53百万円（前年同期比36百万円、40.4%減）となりました。

## (2) 連結財政状態に関する定性的情報

(資産、負債及び純資産の状況)

当第3四半期連結会計期間末の資産は、受取手形及び売掛金の回収や譲渡性預金の払戻しなどによる減少があった一方で、賃貸マンションの取得などによる有形固定資産の増加などにより前連結会計年度末に比べ527百万円増加し、17,071百万円となりました。負債は、未払金の支払や社債の償還による減少があった一方で、新規借入による借入金の増加などにより、前連結会計年度末に比べ289百万円増加し、12,736百万円となりました。純資産は、期末配当を実施した一方で、当期純利益による利益剰余金の増加などにより、前連結会計年度末に比べ237百万円増加し、4,334百万円となりました。

## (3) 連結業績予想に関する定性的情報

前回発表時（平成24年5月10日）の通期の連結業績予想を変更しておりません。

## 2. サマリー情報（注記事項）に関する事項

## (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

該当事項はありません。

## (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

該当事項はありません。

## (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

(会計上の見積りの変更と区別することが困難な会計方針の変更)

法人税法の改正に伴い、第1四半期連結会計期間より、平成24年4月1日以後に取得した有形固定資産について、改正後の法人税法に基づく減価償却方法に変更しております。

これによる当第3四半期連結累計期間の損益に与える影響額は軽微であります。

3. 四半期連結財務諸表  
 (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成24年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成24年12月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	1,345	1,341
受取手形及び売掛金	1,161	1,077
有価証券	550	—
販売土地及び建物	35	86
商品及び製品	25	22
仕掛品	38	0
原材料及び貯蔵品	61	57
前払費用	35	37
繰延税金資産	16	60
その他	76	119
貸倒引当金	△11	△11
流動資産合計	3,334	2,791
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	8,065	8,643
機械装置及び運搬具(純額)	944	919
土地	2,454	2,879
リース資産(純額)	768	830
建設仮勘定	97	146
その他(純額)	221	225
有形固定資産合計	12,551	13,644
無形固定資産		
その他	89	94
無形固定資産合計	89	94
投資その他の資産		
投資有価証券	216	215
その他	323	303
投資その他の資産合計	540	519
固定資産合計	13,182	14,258
繰延資産		
社債発行費	27	21
繰延資産合計	27	21
資産合計	16,544	17,071

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成24年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成24年12月31日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	65	76
短期借入金	4,017	5,456
1年内償還予定の社債	420	420
未払金	656	370
未払法人税等	96	50
未払消費税等	65	53
賞与引当金	227	83
その他	623	691
流動負債合計	6,173	7,202
固定負債		
社債	1,363	1,068
長期借入金	2,855	2,387
リース債務	648	673
長期未払金	679	651
繰延税金負債	169	165
退職給付引当金	230	244
役員退職慰労引当金	113	124
その他	212	219
固定負債合計	6,273	5,534
負債合計	12,447	12,736
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	1,000	1,000
資本剰余金	270	270
利益剰余金	2,261	2,485
自己株式	△13	△14
株主資本合計	3,518	3,742
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	30	26
その他の包括利益累計額合計	30	26
少数株主持分	547	565
純資産合計	4,096	4,334
負債純資産合計	16,544	17,071

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書  
 (四半期連結損益計算書)  
 (第3四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年12月31日)
営業収益	8,824	8,612
営業費		
運輸業等営業費及び売上原価	8,165	8,045
販売費及び一般管理費	107	99
営業費合計	8,273	8,145
営業利益	551	467
営業外収益		
受取利息	1	0
受取配当金	4	5
負ののれん償却額	2	12
雑収入	30	14
営業外収益合計	37	32
営業外費用		
支払利息	75	69
社債発行費償却	4	5
雑支出	5	6
営業外費用合計	85	81
経常利益	504	418
特別利益		
移転補償金	—	74
固定資産売却益	—	24
補助金	12	12
投資有価証券売却益	7	—
特別利益合計	19	111
特別損失		
固定資産売却損	—	180
固定資産除却損	—	17
投資有価証券売却損	—	3
特別損失合計	—	201
税金等調整前四半期純利益	523	328
法人税、住民税及び事業税	128	74
法人税等調整額	△55	△45
法人税等合計	72	28
少数株主損益調整前四半期純利益	450	299
少数株主利益	47	36
四半期純利益	403	263



(四半期連結包括利益計算書)  
(第3四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年12月31日)
少数株主損益調整前四半期純利益	450	299
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△63	△3
その他の包括利益合計	△63	△3
四半期包括利益	387	296
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	341	259
少数株主に係る四半期包括利益	46	37

## (3) 継続企業の前提に関する注記

該当事項はありません。

## (4) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

該当事項はありません。

## (5) セグメント情報等

## I 前第3四半期連結累計期間(自平成23年4月1日至平成23年12月31日)

## 1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	運輸業	不動産業	レジャー・ サービス業	計		
営業収益						
(1) 外部顧客への営業収益	5,883	1,438	1,502	8,824	—	8,824
(2) セグメント間の内部営業収益又は振替高	20	214	243	478	(478)	—
計	5,904	1,653	1,745	9,303	(478)	8,824
セグメント利益	246	214	89	550	0	551

(注) 1 セグメント利益の調整額0百万円はセグメント間取引消去額です。

2 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

## II 当第3四半期連結累計期間(自平成24年4月1日至平成24年12月31日)

## 1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	運輸業	不動産業	レジャー・ サービス業	計		
営業収益						
(1) 外部顧客への営業収益	5,837	1,375	1,398	8,612	—	8,612
(2) セグメント間の内部営業収益又は振替高	20	198	246	465	(465)	—
計	5,858	1,574	1,645	9,078	(465)	8,612
セグメント利益	223	185	53	461	5	467

(注) 1 セグメント利益の調整額5百万円はセグメント間取引消去額です。

2 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。